

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

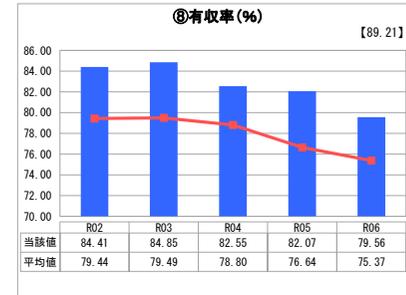
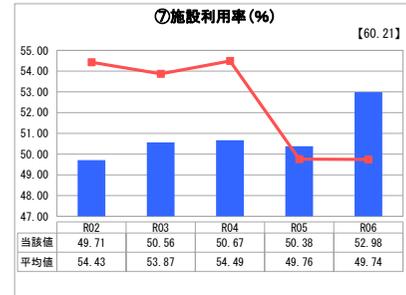
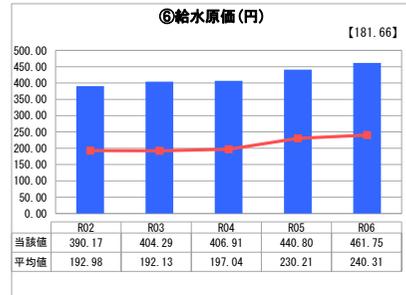
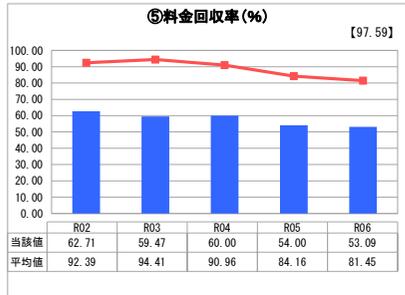
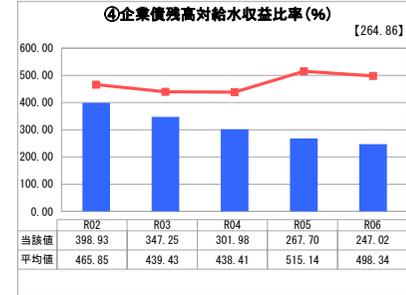
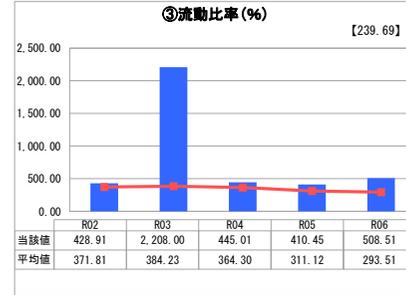
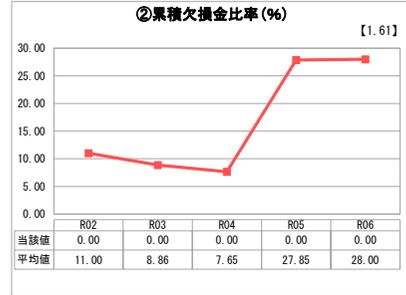
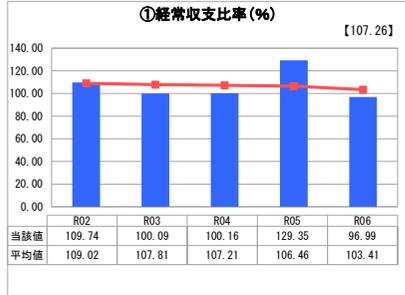
岡山県 吉備中央町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	86.38	97.58	4,246	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,195	268.78	37.93
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,820	264.00	37.20

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

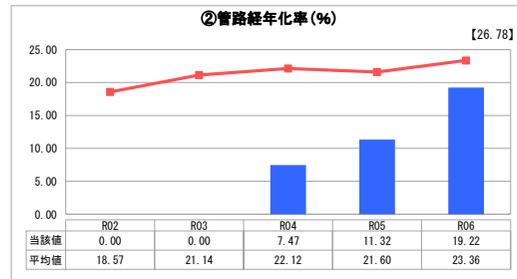
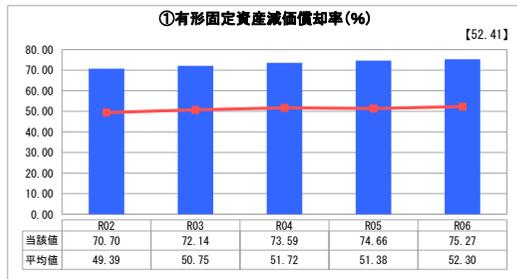
### 1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率は、100%を若干下回ってはいるが、概ね健全な経営状態にある。
- 累積欠損金比率は、0%であることから、健全な財務状況にある。
- 流動比率は、100%を上回っており、高い水準を維持していることから、財務の健全性が高い状態にある。
- 企業債残高対給水収益比率は、継続的に低下してきており、これにより、財務負担が軽減され健全性が向上している。
- 料金回収率は、類似団体平均値を大きく下回っていることから、適正な料金設定の模索が必要である。
- 給水原価は、当自治体が高原地帯に位置し、水源確保が難しいため、下流域にある広域水道企業団からポンプアップで浄水を受水していることから、高い傾向にある。
- 施設利用率は、50%前後で推移していることから、より効率的な運用が求められている。
- 有収率は、減少傾向にあることから、漏水調査や管路更新等を通じて向上に努めたい。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、75.27%に達し、老朽化が著しい状況であり、今後も継続的に上昇することが予想されることから、将来の安定したサービス提供のために、計画的な設備更新を実施していくことが必要である。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

表面上の経営自体は概ね健全で、ある程度の現金ストックもあるが、地形的に受水費が高く、施設及び管路の法定耐用年数が迫ってきていることを考えると、必ずしも経営体力が高いとは言いきれず、その脆弱性が見え隠れしている。漏水調査による有収率の改善、施設管路の計画的な更新、料金改定も含めた経営基盤の安定に努めたい。